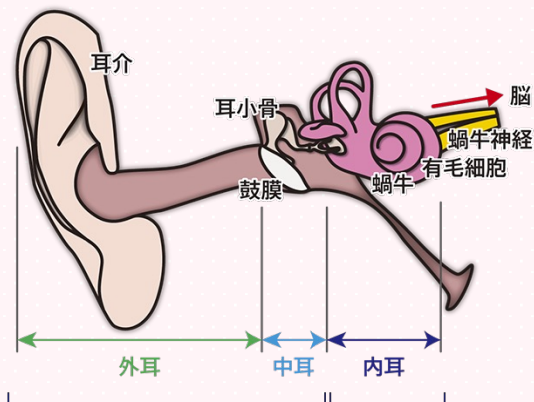


聴力の変化 聞こえにくい状態について

加齢による聴力の低下は一般的に高音域から始まります。40歳代のうちから高音域の聴力レベルは下がってきます。早期に予防することが大切です。

60歳代になると、「軽度難聴」レベルまで聴力が低下する音域が増え、聞こえが悪くなったことを感じる人が急激に増えてきます。さらに70歳をこえるとほとんどの音域の聴力が「軽度難聴」～「中等度難聴」レベルまで低下してしまいます。**65-74歳では3人に1人、75歳以上では約半数が難聴に悩んでいる**といわれています。



外耳から中耳の問題
伝音難聴

内耳・蝸牛神経・脳の問題
感音難聴

2つが合併した
混合性難聴

伝音難聴

外耳や中耳になんらかの障害があることで起こります。
伝音難聴は手術や薬物療法で改善するケースもあります。

感音難聴

内耳、蝸牛神経、脳の障害によって起こります。
急性に生じる突発性難聴などや慢性的に生じる騒音性難聴・加齢性難聴、生まれつきの先天性難聴などがあります。
早期難聴では薬物療法で改善する場合もありますが、感音難聴は補聴器を装用することが大切です。

難聴による影響

- 必要な音が聞こえず、**社会生活**に影響を及ぼす
- **危険を察知**する能力が低下する
- 家族や友人との**コミュニケーション**がうまくいなくなる
- **自信**がなくなる
- **認知症**発症のリスクを大きくする
- 社会的に孤立し、**うつ状態**に陥ることもある

高齢で耳が遠い方々は、
**1年に1度ぐらい、
耳垢がたまっていないか診察
を受けるとよいでしょう。**

耳垢(みみあか)と認知機能の意外な関係

たかが耳垢でも、異常なたまり方をする場合があります。
耳垢が栓のように詰まった「**耳垢栓塞(じこうせんそく)**」という状態になると、これはもはや立派な病気で、耳鼻咽喉科医でないと耳垢を取ることができませんし、難聴や感染の原因にもなります。耳垢栓塞は湿性耳垢や、耳垢を排出する力が弱くなった高齢者に多く見られます。アメリカの高齢者向け施設での調査は、**6割以上の入所者に耳垢栓塞があり、耳垢栓塞を取ることで聴力が改善しただけでなく、認知機能も改善されたことが報告されています。**

引用・参考文献

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会HP
国立研究開発法人
国立長寿医療研究センター

住所：兵庫県加古郡稲美町加古5144-2
メールアドレス：inami@rehapride.co.jp
電話番号：**079-451-7680** FAX：079-451-7783

体験・見学は随時受付中です。お気軽にご相談ください！

